

中国高齢者の生活実態：滄萍ほか編『社会老年学』抄訳

著者	高 継芬
雑誌名	九州看護福祉大学紀要
巻	4
号	1
ページ	287-293
発行年	2002-03
URL	http://id.nii.ac.jp/1164/00000274/

中国高齢者の生活実態

—鄒滄萍ほか編『社会老年学』抄訳—

高 継 芬

G A O J I F E N

Evidence of the Practice in the Maternity Class with the Object of Stimulation of "Taikan (Sense of Body)" Based on the Midwife's Intuition. Part1 —Significance in Art of Midwifery on the Premised of Maternity Class—

Abstract

Old sociology is the book that synthetically considered about Chinese aged person problem. I do an abridged translation of a portion about the life actual situation of the aged person and would like to be available as research date of an aged person welfare

This paper aims to contribute for China to build their welfare system for the elderly, which population is rapidly increasing old people real state of their lives and raising problematic points in their living

Key Words: 高齢者 (the elderly)、婚姻 (marriage)、住居 (housing)、
教育 (education)、収入源 (source of income)

1. はじめに

今、全世界で速いスピードで高齢化社会が進んでいる。各国は自分の国に合った高齢者福祉政策に取り組んでいる。中国も例外ではない。中国は世界で人口が一番多い国であるだけでなく、高齢者人口も世界一である。1998年の総人口は12.4億人で、60歳以上の高齢者人口は1.2億人を超えており、2000年は1.3億人で総人口数の10%を占めている。中国に急激に高齢化が進んでいることは、中国だけではなく、世界にとっても大きな問題である。中国では社会主義であるため、社会保障などはつい最近まですべて国が責任を持って、再分配という形をとっていたが、改革開放政策の導入によって、社会主義システムが崩れ始めつつある。特に高齢者福祉について、今までほとんど触れなかったが、中国にとって高齢者問題は早急に対応しなければ、いろんな支障が生じて来る。ここで、『老年社会学』（鄒滄萍 ほか編、中国人民大学出版社1999年）の抄訳をすることによって、中国の高齢者の基本的な生活状況を紹介し、高齢者福祉の視点から高齢者が老後を幸せに暮らすためにどのような援助が必要とされているのかを見付けて、少子・高齢化によって高

齢者福祉の研究においては、高齢者の家族扶養だけでは老親扶養が難しくなってくる。この問題を解決するために中国の国情にあった高齢者福祉政策をどう取り組めば良いのかという答えを見つけるために役に立ちたいと思う。

2. 中国の高齢者の現状と未来

(1) 中国高齢者人口の規模と年齢

1953年に中国の60歳以上の高齢者人口は4154万人、1982年は7644万人、そして1990年には9697万人に達した。予測では、2015年中国高齢者人口は2億人、2027年には3億人、2043年には4億人に達する。21世紀半ばの高齢者人口がすでに出生したので、この予測はほぼ的中するだろう。

ここでは、1953年から2050年まで中国高齢者人口年齢構成の変化の特徴について四つの段階に分けて説明したいと思う。(表1参照)

第一段階：1953-1964年。この時期は、60歳以上の高齢者人口の中で、60歳~79歳の人口割合が極めて高く、95%以上を占めていて、80歳以上の人口の割合は極めて

少なく、4.5%である。

第二段階：1964-2010年。この段階では60歳以上の高齢者人口の中で、60歳～79歳の高齢者人口は少しずつ減少している。2010年には、90%を占めるだろう。同時に80歳以上の高齢者人口は増加して、2010年には10.9%を占めるだろう。

第三段階：2010-2030年。この段階では60歳以上の高齢者人口の中で、60歳～79歳の人口割合はさらに上昇して、2020年には90%を占めるだろう。同時に80歳以上の人口割合は減少し、2020年には10.4%を占めるだろう。1950-1970年に出生した人口は高齢者の初期、中期に入っている。第二、三段階の人口構造の変化速度は緩やかで、社会経済に影響はあまりない。

第四段階：2030-2050年。この段階では60歳～79歳の高齢者人口の割合はさらに減少し、2050年には80%を占

めるだろう。一人っ子政策が実施されたので、1975年以後、出生率が急激に減少した。この時期に出生した人々は高齢者の初期に入っている。同時に80歳以上の人口は増加して2050年には、20%を占めるだろう。60歳以上の高齢者人口の中で5人に1人が80歳以上の高齢者であることが極めて大変な事態になる。

現在、中国の60歳以上の高齢者人口の中で、70歳以下は62%、80歳以下は90%、80歳以上は10%未満ではあるが、高齢化社会を迎える準備は早目に整えたほうがいいと懸念される。

中国は世界の中で人口が一番多い国であり、高齢者数も世界一である。21世紀に高齢者人口は数千万人にも達する。高齢者福祉対策について早急に対応する必要がある。

表1 中国60歳以上高齢者人口の構成変動状況 (1953-2050年) (千人)

年	1953	1964	1982	1990	2000	2010	2020	2030	2040	2050
総人口	567446	694581	1003914	1130511	1260082	1346997	1423817	1458180	1455661	1422660
60歳以上	41538	42255	76638	96970	126308	162861	233842	335870	393047	423385
比例%	7.3	6.1	7.6	8.6	10.0	12.1	15.6	23.0	27.0	29.8
60歳以上の人口に対して、80歳以下と以上の占める割合										
合計	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
60～79歳	95.5	95.7	93.4	92.1	90.4	89.1	89.6	89.6	86.1	79.2
80歳以上	4.5	4.3	6.6	7.9	9.6	10.9	10.4	10.4	13.9	20.8

出所：杜鵬『中国人口老齡化過程研究』、北京、中国人民大学出版社、1994

(2) 中国高齢者人口の性別構成

ここで、性別指数という言葉を使う。女性100名に対して、男性の人数が占める割合を性別指数という。現代社会で、生理的及び社会・経済などの原因で、女性の平均寿命が男性より高いので、年齢の増加と共に性別指数が低くなる傾向が見える。

中国の性別指数は、1953年には81.7単位であるが、1964年には75.5単位に下がり、1982年には86.7単位で、1990年には90.8である。この時期の性別指数が一番高くなっている。

(3) 中国高齢者人口の民族構成

中国は多民族国家であり全部で56の民族で構成されている。1990年の全国人口統計によれば、漢民族は91.99%、少数民族は8.01%を占める。全人口に対して高齢者人口の割合は8.58%で、1982年より12.39%も上昇した。漢民族の中で60歳以上の高齢者割合は8.67%、全人口の高齢者割合よりも高いことがわかる。少数民族の中

で60歳以上の高齢者の割合は6.94%であり、漢民族より低いことが分かる。

3. 中国高齢者の婚姻及び住居の状況

(1) 中国高齢者の婚姻状況

1990年全国第4回人口調査統計によれば、60歳以上の人口9697万人の中で、未婚者が1.31%、既婚者が59.68%、死別者が38.19%、離婚者が0.81%である。1990年の高齢者人口の既婚者数は1982年より5.5%上昇したことが分る。また死別者人口は5.4%減少したことが分る。既婚者及び死別者が高齢者人口のほとんどを占めている。1990年には二つ合わせて97.9%を占めている。中国の高齢者は結婚率が高く、未婚率と離婚率がきわめて低いことが分る。(表2, 3参照)

表2 中国高齢者人口の婚姻状況の変化

婚姻状況	1982年		1990年	
	人数(万人)	比例(%)	人数(万人)	比例(%)
高齢者人口総数	7664	100.00	9697	100.00
未婚者	103.5	1.35	127.3	1.31
既婚者	4148.5	54.13	5787.5	59.68
死別	3342.3	43.61	3703.6	38.19
離婚	69.7	0.91	78.6	0.81

出所：同表1

表3 性別別高齢者人口の婚姻状況(%)

婚姻状況	男性		女性	
	1982年	1990年	1982年	1990年
合計	100.00	100.00	100.00	100.00
未婚者	2.56	2.45	0.30	0.28
既婚者	69.00	72.64	41.25	47.92
死別	26.91	23.60	58.08	51.44
離婚者	1.53	1.31	0.37	0.36

出所：同表1

表3を見ると、1990年の4614万人の男性高齢者と5083万人の女性高齢者の中で、男性既婚者率は女性より25%高く、女性は夫と死別している割合が、半分近くを占めている。

(2) 中国高齢者の住居状況

高齢化が進んでいるにつれ子供が減少しているのに対して、高齢の親の数が増えつつある。昔は一つの家庭に平均子供が平均して4、5名が居たが、今は1、2名居るのが普通になっている。子供の数は減っているが、扶養する親の数は変わらないので、子供の負担が大きくなることが分かる。

世界一の途上国である中国は、家庭扶養は昔から養老方式の中の一番基本的なものであった。社会保障制度に不備があり、社会福祉サービス施設がまだ建設し始めたばかりで、ほとんどの高齢者が老後生活や、介護などにおいては子供からの助けがなければ成り立たない状況である。したがって、高齢者の居住方式及びその変化が高齢者の生活に大きな影響を与えているといえよう。

中国においては、社会保障制度は都市の普及率が高いが、都市人口は全人口の4分の1しか占めていない。中国の大部分の高齢者、特に農村の高齢者達は、老後の生活はすべて子供に頼らなければならない。都市でも、老後になったら子供にしか頼れないという観念が強く、息子がいれば老後の心配はない、息子と一緒に老後を暮らしたいという希望を持っている高齢者が圧倒的に多い。また、高齢者の経済援助はほとんど親戚と子供から提供されているので、それは高齢者の居住方式にも影響している。国家統計局の1994年のサンプル調査によれば60歳以

上の高齢者の57.1%が、親戚及び子からの経済援助を受けており、農村では64.2%に達している。子供から経済援助を受けているため、子供と共同生活するケースがほとんどである。(表4参照)

1990年、48.5%の高齢者は3世代以上の家庭で暮らしている。3世代以上の家庭は高齢者の主要な居住方式になっている。その次は2世代家庭で、24%を占めている。高齢者の居住方式を見ると、高齢者の年齢が高いほど3世代及び3世代以上の家庭で暮らしている割合が高いことが分かる。

先進国と比較すると、中国で一人暮らしをしている高齢者は極めて少なく、全体の8.9%に過ぎない。夫婦のみで暮らしているのは14.9%で、子供と一緒に暮らしているのが一番多く、76%の高齢者が子供や孫と暮らしている。

また、高齢者の居住方式は性別によって異なっている。男性高齢者の場合、2世代の家庭で暮らしている人が女性より多く、男性は28.4%、女性は20.0%である。逆に女性高齢者は3世代の家庭で暮らしている人が男性より多く、女性は53.9%で、男性は42.6%である。

65歳以上の各年齢層高齢者人口の中で、3世代及び3世代以上の家庭で暮らしている人が多い。60~64歳の高齢者の中で、2世代の家庭と3世代の家庭で暮らしてい

表4 1990年中国高齢者の居住方式 (%)

年齢	一人暮らし	夫婦	2世代	3世代		合計
60-64歳	5.0	17.1	38.0	38.2	1.8	100.0
65-69歳	7.3	20.5	22.3	47.6	2.3	100.0
70-74歳	9.9	18.4	13.2	56.1	2.4	100.0
75-79歳	12.8	13.8	10.7	60.0	2.7	100.0
80歳以上	14.3	7.5	12.4	63.2	2.5	100.0
合計	8.2	17.1	24.0	48.5	2.2	100.0
男性						
年齢	一人暮らし	夫婦	2世代	3世代	その他	合計
60-64歳	5.1	16.8	41.8	34.6	1.7	100.0
65-69歳	6.9	21.9	27.8	41.3	2.1	100.0
70-74歳	8.6	23.0	16.1	49.9	2.3	100.0
75-79歳	11.8	20.3	11.3	53.7	2.9	100.0
80歳以上	12.3	15.1	12.1	57.9	2.6	100.0
合計	7.4	19.6	28.4	42.6	2.1	100.0
女性						
年齢	一人暮らし	夫婦	2世代	3世代	その他	合計
60-64歳	4.8	17.4	33.9	41.9	1.9	100.0
65-69歳	7.8	19.2	17.0	53.6	2.5	100.0
70-74歳	11.0	14.5	10.7	61.3	2.4	100.0
75-79歳	13.6	8.8	10.2	64.8	2.6	100.0
80歳以上	15.4	3.6	12.6	66.0	2.4	100.0
合計	8.9	14.9	20.0	53.9	2.3	100.0

出所：杜鵬「中国老年人居住方式変化的隊列分析」、『中国人口科学』1999（3）

ている人がほぼ同じである。全体的に見ると、年齢が高ければ高いほど3世代以上で暮らしている割合が高くなる傾向があり、80歳以上の高齢者は60%以上が3世代以上の家庭で暮らしている。

また、都市と農村部の社会・経済発展の差によって、高齢者の居住方式は異なる。都市の高齢者のほうが2世代で暮らしている人が多い傾向にある。

一人暮らしをしている高齢者は少ないが、福祉サービスがこの人たちまで届くような社会保障制度を完備していないので、早急に対応しなければならない。

大部分の60歳以上の高齢者は、農村で暮らしていて、農村部では基本的に退職金がないため、経済的な援助を子供に頼らなければならないので、子供と共同生活するケースが多い。女性の平均寿命は男性より高いので、子供と共同生活している親のうち女性のほうが多い傾向にある。

(3) 中国高齢者の住居条件

老後において住居の需要が先進国で重視されている。

中国では高齢者の大部分は家庭扶養になっているので、子供との共同生活が多く、高齢者の住居の需要がそう重視されていない。都市と農村部の居住条件は異なる。簡単に言えば都市の住居の質は良く、農村部の居住面積は広い。しかし、質が良いのであれ、面積が多いのであれ、高齢者自身の部屋は確保されていないことは、都市部でも農村部でも同じである。

高齢化社会が進む国においては、高齢者問題の対策を研究する時に、収入保障、医療保健、社会福祉、雇用対策、住居と環境の五つの方面に重点を置いている。住居問題は高齢化社会に重要な問題であることが分かる。環境の良い住居は高齢者にとって老後を暮らすにあたり、欠けてはならない条件である。

先進国では、高齢者が住居を所有している割合が高いオーストラリアでは、1984年には90%近い高齢者夫婦と60%の一人暮らしの高齢者が自分の家を持っていた。アメリカでは1987年には75%の65歳以上の高齢者が自分の家を持っていた。

中国での、都市部と農村部住居のもう一つの相違点は

所有権の所属が違うということである。農村の住居の所有権は個人にあるのに対して、都市部の住居の所有権は会社にあるため、月毎に家賃を払う必要があるが、農村部では家賃の負担はない。

中国の高齢者の住居規模は異なる原因が二つある。一つは都市部と農村部の分布によるものである。農村部に暮らしている高齢者は、家庭の需要及び経済条件に合う住居の様式及び規模を選択ができるが、都市部では会社に与えられた住居に住むしかない。もう一つは家庭の経

済状況である。農村部では、裕福な家庭はもっと良い家を建てることができる。都市部では、裕福な家庭は自分で家を建てることできないが、別に家を買ったり、賃貸したりすることによって、住居面積を広くすることができる。しかし、裕福な家庭は数えられるほどなので、ほとんどの人は家を買う経済力がない。やはり、農村部の高齢者の住居面積は都市部より広いのである。(表5参照)

表5 高齢者の平均住居面積 (%)

地区	合計	1人あたりの居住面積 (m ²)					
		4	4~6	6~8	8~10	10~12	12
市	100	5.03	17.99	20.79	16.26	12.63	27.29
鎮	100	2.28	11.85	17.56	15.35	15.02	37.94
県	100	3.77	6.36	9.97	13.14	11.80	54.96

出所：中国1987年60歳以上の高齢者人口サンプル調査

1987年の調査では、都市部では、43.81%の高齢者の住居面積は8 m²未満であり、27.29%の高齢者の住居面積は12 m²以上である。農村部では、54.96%の高齢者の住居面積は12 m²以上である。

住居面積だけを見れば、農村部の高齢者のほうが多いが、農村部の住居環境はあまり良くない。広いが間取りがない、衛生状況が悪い、水道がないといったマイナス

面はある。都市部の住居環境は農村部のそれよりずっと良い。

同じ調査によると、都市部の高齢者の中で、寝室を所有している人は73.5%と77.10%を占めている。農村部では49.52%しか占めていない。(表6参照)

表6 高齢者の居住環境に対する満足度 (%)

地区	合計	寝室あり	2世代同居	3世代同居	自分の部屋なし
市	100	73.5	18.23	5.92	2.36
鎮	100	77.10	17.19	3.94	1.76
県	100	49.52	40.70	8.02	1.74

出所：1987年60歳以上の高齢者サンプル調査

今、国際的に高齢者に向けてバリアフリーな建築設計が多くなってきている。中国もこの方向に向かって、努力をしなければならない。高齢者にとってより暮らしやすい住居環境、生活環境を作り上げなければいけない。

4. 中国高齢者の受ける教育水準

中国の高齢者の教育水準は少しずつ高くなっているが、中国は識字率が低い国である。1982年の全国人口調査によれば、15歳以上の人口の中で2.3億人は文盲又は半文盲であり、15歳以上の人口の34.5%を占めている。60歳以上の高齢者人口の中で、文盲・半文盲は6087万人であり、文盲・半文盲総数の25.6%を占めている。また、

1990年第4回人口調査の結果によれば、15歳以上の人口の中で文盲・半文盲は1.82億人で、15歳以上の人口の22.2%を占めている。1990年と1982年を比較すると、15歳以上の人口の中で文盲・半文盲数は21%減少したが、高齢者の中で文盲・半文盲数は750万人増加した。

中国の高齢者の教育レベルは非常に低く、これは歴史的な原因がある。これら高齢者達の若い時代は社会経済の発展が遅れていたため、経済的に授業代を支払えないくらい貧困であった。

1987年60歳以上の高齢者のサンプル調査によると、60~64歳の高齢者が受けた教育年数は2.67年、70~74歳は1.57年、80歳以上は1.10年だった、年齢が高ければ高いほどその教育レベルは低いことが分かる。また、男女別

では、男性高齢者が教育を受けた年数が5.29年であるのに対して、女性は1.57年であり、中国では男尊女卑の差

別があることが分かる。(表7参照)

表7 中国高齢者人口が受ける教育レベル(万人)

教育レベル	男性高齢者				女性高齢者			
	1982年		1990年		1982年		1990年	
	人数	比例%	人数	比例%	人数	比例%	人数	比例%
合計	3557.9	100.0	4614.3	100.0	4105.9	100.0	5082.7	100.0
大学	21.1	0.6	86.1	1.8	3.6	0.1	21.1	0.4
高校	55.2	1.6	102.1	2.3	10.6	0.3	20.4	0.4
中学	212.2	6.0	411.9	8.9	22.5	0.5	63.0	1.2
小学	1103.5	31.0	1721.8	37.3	150.9	3.7	439.4	8.7
文盲半文盲	2165.9	60.9	2292.4	49.7	3918.3	95.4	4538.8	89.3

出所：『人口老齡化過程中的中国老年人』P137上海、華東師範大学出版社、1996

資料での中国高齢者の教育レベルは農村部より高く、過去の中国農村部の教育はもっと遅れていたことが明らかである。

1982年の人口調査によると、60歳以上の高齢者人口の中で、男性文盲は60.9%を占め、女性文盲は95.4%を占めている。教育レベルは文盲・半文盲及び小学校卒業である人が男性総人口の91.9%、女性総人口の99.1%、表を見ると高齢者が受けた教育レベルが非常に低いことが分る。

1991年の人口調査によると、60歳以上の高齢者人口の中で、男性文盲は49.6%を占め、女性文盲は89.3%を占める。教育レベルは文盲・半文盲及び小学校卒業である人が男性総人口の87%、女性総人口の98%、1982年と比較すると男性高齢者の文盲が減少するのは女性より速いことが分かった。

5. 中国高齢者の就職及び経済状況

(1) 中国高齢者の労働参加状況

都市部では定年退職制度があるが、農村部では定年退職制度がないので、農村部での高齢者が労働に参加する人数は都市部より高い。

1990年の人口調査によれば、高齢者の社会参加者は2768.4万人、高齢者人口の28.5%を占める。男性は2024.6万人で、73.8%を占め、女性は725.8万人で、26.2%を占める。職業別に分けると88.8%の人は農林業、3.2%は工業、3.3%は商業で働いている。

高齢者の働く職業は中国の経済発展レベルと密接に関係している。中国は主に農業の発展途上国である。1990年の人口調査では、労働者全体職業を見ると農林業は

72.3%を占めている。1982年は73.7%を占めていた。

(2) 中国高齢者の収入源

1994年の全国人口サンプル調査によると、第一位は子供及び親戚からの経済的援助で、57.1%を占め、第二位は高齢者自身の労働収入25.0%を占め、第三位は退職金で15.6%を占め、第四位は社会保険と救済で、1.2%を占めている。

高齢者の晩年生活を支える経済収入は3つの柱からなる。子供あるいは親戚、自分の所得、退職金である。この構成は一定の期間で変わらないが、社会・経済の発展及び人口都市化の発展によって、退職金で生活をまかなう高齢者は増える傾向にある。

全国の60～64歳の高齢者の収入源を見ると、所得は41.54%を占め、退職金は18.99%、子供からの援助は37.83%を占める。他の年齢層と比較すると、子供からの援助が一番低いのである。また、退職金が収入源としているのが一番高いのである。

48.36%の60歳以上の高齢者は労働に参加している。主な収入源も所得であるが、65歳になると29.97%になり、さらに70歳になると16.82%になった。年齢が高くなるに連れて労働に参加することができなくなり、自分の面倒を見られなくなることが分る。

都市部と農村部を比較すると、都市部の高齢者は経済力が強く、農村部の高齢者は経済力がほとんどなく子供と親戚の経済援助に頼るしかない。また、北京、上海のような大都市以外の地域では子供に頼るケースがほとんどである。

高齢者の経済収入源は居住方式と密接な関係がある。子供に経済援助してもらった高齢者は子供と共同生活して

いる人が多い。社会保険と救済が主な収入源である高齢者は一人暮らしが多いのである。

6. むすびにかえて

以上、『社会老年学』の抄訳を通じて、中国の高齢者の生活実態について簡単に紹介した。中国の高齢者の大部分は保障のない状況の中で生活していることがわかった。誰かに頼らなければ一人では生きていけない。中国では特に農村の高齢者に高齢者福祉についてこれといった政策を取っていない。大部分の高齢者は退職金がない言わば収入がなく、子供や親戚に援助してもらわなければ生活できないという厳しい現実にある。最近一部の都市部では養老保険を導入したが、中国の国情にあった高齢者福祉政策は都市部だけではなく、むしろ農村部の退職金もなく、年金もない高齢者を対象に、考えなければならぬと思う。もう一つは一人暮らしの高齢者に対して、福祉の手が届いていないことがはっきりしている。また、家族福祉サービスを見なおされる今、高齢者の生活スタイルに合った福祉政策を見つけないと思う。